

※本資料は8月9日にスイスで発表されたプレスリリースの日本語抄訳版です。
詳細な情報は下記より英語原文をご覧ください。
<https://bit.ly/2Mb79Pa>

アデコ 2018年度第2四半期は均衡のとれた成長で利益が改善

— 競争力向上のため戦略的な新しい取り組みへの投資を継続 —

[2018年8月9日 スイス・チューリッヒ]

2018年第2四半期サマリーとハイライト

- 営業日数調整後の既存事業売上高^{※1}は前年同期比4%増
- 北米のジェネラル・スタッフィング事業が成長に戻り、営業日数調整後の既存事業売上高が前年同期比3%増
- 人財紹介事業の既存事業売上高が18%増と大幅に成長
- 粗利率は18.3%と前年比で安定；人財派遣の価格ミックスのトレンドは2018年第1四半期に類似（-10bps）
- 一時的要因を除くEBITA^{※2}利益率は、戦略的投資による-30bpsの影響を含め、30bps減の4.5%
- 当期純利益は1億7000万ユーロ
- 2018年6月、7月の営業日数調整後の既存事業売上高は4%増
- 2018年7月にBeelineの売却を発表；税引き後利益は1億7200万ユーロ

アデコグループ CEO、アラン・ドゥアズは次のようにコメントしています。

「2018年第2四半期は、売上高が前年同期比4%増と堅調に成長し、成長の内容もより均衡のとれたものとなりました。北米でのジェネラル・スタッフィング事業が成長に戻り、2015年第2四半期以来の高い業績をあげたことで、ヨーロッパのいくつかの国における低い成長を相殺しました。そして、アデコグループにとってもっとも大きな市場であるフランスでは、市場の成長を大きく上回る業績を残しました。人財紹介事業は引き続き好調であり、これはわれわれの的を絞った投資の成果です。

2018年第2四半期は、粗利率が安定しました。われわれは価格統制を維持し、優秀な人財が希少になる人財市場で増加する採用コストをますます請求に反映できるようになりました。EBITA 利益率は、『Perform、Transform、Innovate』というわれわれのアジェンダにおける投資と、ドイツでのジェネラル・スタッフィング事業の統合の影響を受けました。2018年下半期は粗利率が改善する見通しであり、以前に言及した生産性の向上による5000万ユーロの節約を実現できるでしょう。

アデコグループのデジタル化に関する投資は、われわれの競争力を大きく向上させ、中核事業の市場におけるシェアを拡大するとともに、われわれが持つソリューションを魅力的な隣接市場に広げることが可能にします。グループにおける変革が推進力となるなか、熱意を持って献身的に業務に取り組むすべての従業員に感謝したいと思います」

*1：既存事業売上高とは米国会計基準以外の基準で、為替変動、M&A、事業部売却の影響を除く

*2：EBITAは米国会計基準以外の基準で、償却前営業利益、のれん、および無形固定資産の減損を含む

*3：2018年度年2四半期の一時的要因を除くEBITAは、事業再編費用に関して1100万ユーロであり、そのうちの600万ユーロは事業再編費用、500万ユーロは取得コスト。



<主な数値>

2018年第2四半期の損益計算書情報のサマリー

単位： 100万ユーロ	2018年 第2四半期	2017年 ^{※4} 第2四半期	変化率(%)： 報告数値	変化率(%)： 既存事業成長率
売上高	6,052	5,972	1%	5% ^{※5}
売上総利益	1,107	1,091	2%	5%
EBITA 利益 (一時的要因を除く)	270	287	-6%	0%
EBITA	260	288	-10%	-4%
当期純利益	170	192	-11%	
希釈 EPS (ユーロ)	1.02	1.13	-9%	
粗利率	18.3%	18.3%	0bps	0 bps
EBITA 利益率 (一時的要因を除く)	4.5%	4.8%	(30) bps	(20) bps
EBITA 利益率	4.3%	4.8%	(50) bps	(40) bps

2018年第2四半期のキャッシュフローおよび純負債情報のサマリー

単位： 100万ユーロ	2018年 第1四半期	2017年 第1四半期
利払いおよび納税前のフ リー・キャッシュフロー ^{※6} (FCFBIT)	360	346
フリー・キャッシュフロー (FCF)	261	212
純負債 ^{※7}	1576	967
未払い日数	53	51
現金流動性 ^{※8}	78%	97%
EBITDA への純負債 ^{※9}	1.4x	0.8x

2018年第上半期の損益計算書情報のサマリー

単位： 100万ユーロ	2018年 上半期	2017年 ^{※4} 上半期	変化率(%)： 報告数値	変化率(%)： 既存事業成長率
売上高	11,744	11,702	0%	5%
売上総利益	2,140	2,169	-1%	3%
EBITA 利益 (一時的要因を除く)	484	560	-13%	-9%
EBITA	454	557	-19%	-14%
当期純利益	300	368	-18%	
希釈 EPS (ユーロ)	1.81	2.16	-16%	
粗利率	18.2%	18.5%	(30) bps	(30) bps
EBITA 利益率 (一時的要因を除く)	4.1%	4.8%	(70) bps	(60) bps
EBITA 利益率	3.9%	4.8%	(90) bps	(90) bps

**2018 年上半期のキャッシュフローおよび純負債情報のサマリー**

単位： 100 万ユーロ	2018 年 第 1 四半期	2017 年 第 1 四半期
利払いおよび納税前のフ リー・キャッシュフロー ^{※6} (FCFBIT)	375	473
フリー・キャッシュフロー (FCF)	242	311
純負債 ^{※7}	1576	967
未払い日数	53	51
現金流動性 ^{※8}	78%	97%
EBITDA への純負債 ^{※9}	1.4x	0.8x

*4：2018 年に「ASU 2017-07 - 正味年金および退職後給付費用の表示」を採用したことにより、2017 年の数値が修正された。「販売費および一般管理費」に表示されていた勤務費用以外の年金費用の構成要素は、「その他の収益/（費用）、純額」に表示されます。

*5：2018 年第 2 四半期の既存事業の売上高の成長率は 5%もしくは営業日数調整後で 4%

*6：フリー・キャッシュフローは米国会計基準ではない尺度で、営業活動からのキャッシュフローから設備投資を控除したもの

*7：純負債は米国会計基準以外の基準で、短期および長期の借入金から現金、現金同等物、および短期投資を控除したもの

*8：現金換算は米国会計基準以外の基準で、直近四半期の FCFBIT を直近四半期の EBITA で割ったものを四捨五入して計算

*9：EBITDA への純負債は米国会計基準以外の基準で、期末時点での純負債を、一時的要因を除いた直近四半期の EBITA で割って減価償却費を加えたもの

2018 年第 2 四半期の日本の状況

2018 年第 2 四半期の日本での売上高は 3%増の 3 億 2,400 万ユーロで、プロフェッショナル・スタッフィング事業と人財紹介事業が好調に成長しました。EBITA は 2400 万ユーロ、EBITA 利益率は IT への戦略的投資による価格ミックスの相殺の効果も一部あり、前年に引き続き 7.4%となりました。

【本件に関するお問い合わせ先】

アデコ株式会社 広報部

Tel. 03-6743-8085